

# 平成24年度 第1回 島原脳卒中地域連携研究会 議事録

1. 日時 7月 5日(木) 18時30分～20時00分
2. 場所 島原病院 別館研修ホール
3. 参加者  
院外 149名 院内 25名 合計 174名

## 4. 議事

18時34分～オリエンテーション (諸田)

18時35分～挨拶(徳永)

脳卒中の患者は障害を持ったまま生きていくわけですから、急性期から回復期 維持期 介護まで連携し患者家族を支えどこからでも「自宅へ帰って安心した生活」ができるように推進するための方策を皆さんとともに考えていきたいと考える趣旨の研修会です。

## 報告

18時36分～1. 脳卒中の地域完結型の推進強化に向かって  
高次脳卒中センター長 徳永 能治 (資料 1参照)

18時45分～2. 脳卒中地域連携パスの運用状況と今後の課題  
連携推進員 藤原 康子 (資料 2参照)

18時58分～3. 介護保険施設から見た脳卒中患者の現状と問題点  
NPOしまばら 主任ケアマネージャー 木原 小夜子 (資料 3参照)

18時50分～ 質疑応答

(質問) (報告) 2 の統計について、施設も自宅に数えることができるのでそれを含めばもっと自宅退院の割合が増えるのではないかとサービス付き 介護マンションの事でしょうか。専門家が介護するので、あえて報告者の意図として入れず、家族が介護する場合を自宅と定義したため、数に入れていません。

19時10分 「島原メディカルケアネット」について  
病院情報システム支援業務委託事業者責任者 谷口昌己 (資料 4参照)

19時25分～ 脳卒中地域連携パスの使用状況と問題点について  
島原病院脳外科病棟看護師長 田中 静子 (資料 5参照)

19時34分～ 脳卒中連携パスの目的・記入方法 記入しにくい個所について  
池田病院 リハビリ部長 高柳 公司

補足 最初は看護必要度を記入してもらっていたが、看護必要度は入院した病棟で測定基準が違っているため、例えば、ICU病棟 7対1入院基本料 各施設では測定する尺度が一定ではない。そのため今年4月よりmRSに変更し1～6で評価している。各施設に送付していますので確認してください

それから、地域連携研究会は年3回開催しその議事録はその都度郵送しています。厚生局からの問い合わせがありますので、議事録の保管をよろしく願います。

(質問) 年間3回 研究会を受けていることの証拠というわけですか。当院のHPに議事録を載せているので、そこから、印刷してください。

19時27分～ 質疑応答

(質問) メディカルケアネットについての話は会議の時、松尾院長から説明があった分だと思うが、脳卒中連携パス以外にも個人情報が入っているがその扱いについてはどうなっているのか。パスに関してのシバリはあるのか？パスを必ず使用しなければならないということは無く、紙ベースでの運用でも構わないです。「メディカルケアネット」については施設長が任命した人が見ることは構いませんが、個人情報の扱いについては施設長が責任を持つことになります。

補足 BI FIMの付け方が難しいとのことでしたが、パスでは評価の基準としてそれ(BI FIM)で評価することと決まっています。この地域で行われているリハビリが脳卒中のリハビリとして適切に行われている事の検証になります。最後まで記載し返却してください。連携パスは、これだったら(脳卒中の症状や程度)次はここ(病院・施設)になりますと強制するものではありません。経過を追って、うまく患者さんが流れているかを確認するためのものですのでご協力をお願いします。

19時52分～ 脳卒中地域連携施設の申し込みについて  
島原病院 医事係長 竹山 路世

6月に、新たに連携を希望される施設を募ったところ、2段階目の介護サービス機関が1施設、3段階目の医療機関が1施設、介護サービス機関が3施設の合計5施設から申込がありました。届出が済みましたら、ご報告いたします。  
厚生局への定例報告に関する調査資料を2段階目の医療機関(16施設)の封筒に入れてあります。7月23日までに提出をお願いします。

19時55分～ しまばら半島脳卒中市民公開講座について  
島原病院 リハビリ科 前田 和崇  
20時 閉会(諸田)

資料 各施設に1部

- ・脳卒中地域連携施設の申し込みについて
- ・しまばら半島脳卒中市民公開講座 案内
- ・脳卒中地域連携パスの記載マニュアル